

2011年5月23日

各位

会社名 株式会社みずほフィナンシャルグループ
代表者名 取締役社長 塚本 隆史
本店所在地 東京都千代田区丸の内二丁目5番1号
コード番号 8411 (東証第一部、大証第一部)

「信頼回復」に向けた取り組みについて

～ワンバンクへの実質的移行と合併等の統合の将来的検討～

この度のシステム障害により、お客さまをはじめ、広く社会の皆さまに大変なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。日本全体が困難な状況にある中、金融機関として、その決済機能を滞らせた事態を、当社グループ経営陣はもとより、役職員一同、大変に重く受け止めております。

株式会社みずほフィナンシャルグループ（取締役社長：塚本 隆史、以下「当社」又は「FG」）及び当社グループ（以下〈みずほ〉）は、このような事態を引き起こしたことに對する真摯な反省に立ち、今後、再び同様の事態を生じさせないという強い決意とともに、お客さまの信頼を今一度取り戻すために、これから取り組むべき項目を「変革」プログラムの加速策として以下の通り表明させていただきます。

1. 信頼回復に向けて

信頼回復に向けた取り組みの根幹は、「お客さま第一主義」の徹底であります。その第一歩として、「経営体制」「人事」「業務」の大胆な集約と一元化を図ることで、グループの一体運営を一段と強化し、合併等の統合を視野に入れた「ワンバンク」に実質的に移行することと致しました。すなわち、グループガバナンスの強化、人事の完全一本化、業務インフラの一元化を進めることで、グループ全体最適の実現と組織活力の向上、グループ経営効率の改善を図るものであります。重複する本部機能の持株会社への集約等により、経営体制をこれまで以上に一体化・効率化するとともに、事務やシステムの一元化により、旧弊と無駄を排除する合理化を徹底することで、持てるエネルギーを最大限「顧客志向」に注いでまいります。

2. 骨子

「ワンバンク」に実質的に移行し、合併等の統合を将来的に検討

(1) グループガバナンスの強化

グループCEOの明確化、取締役会諮問機関の独立性強化、及び企画・管理本部の一元化を通じて、グループガバナンスを一段と強化

(2) 人事の完全一本化

人事担当役員、及び人事部の完全一本化により、適材適所の人材配置と機動的な人員配置を実現し、グループ組織活力を向上

(3) 業務インフラの一元化

事務の一元化、及び全てのバンキング業務のシステムプラットフォームの完全一元化により、グループ経営効率を抜本的に改善

3. 具体的内容

(1) グループガバナンスの強化

① グループCEOの明確化

- ・ F G取締役社長を「グループCEO（最高経営責任者）」と明確に位置づける

② 取締役会諮問機関の独立性強化

- ・ 指名委員会及び報酬委員会の独立性強化に向け、社外構成員を過半数とする体制に変更
－現在の社外3名・社内3名の6名体制から、社外3名・社内1名（F G取締役社長）の4名体制へ変更

③ 企画・管理本部の一元化

- ・ F G、株式会社みずほ銀行（以下「BK」）及び株式会社みずほコーポレート銀行（以下「CB」）にそれぞれ担当役員（3名）を配している現在の体制から、原則として、F G担当役員がBK及びCB担当役員を兼務することにより一元化を目指す
- ・ IT・システム部門については、BK及びCB担当役員が傘下銀行システムの安定稼働とシステムリスク管理を担当する一方、F G担当役員がITガバナンス全般と次期システムを担当

(2) 人事の完全一本化

○ 人事ラインの完全一本化

- ・ F G人事担当役員がBK及びCB人事担当役員を兼務するとともに、人事部をF Gに一本化することで、グループ横断的かつ一元的に責任を持つ体制へ移行
－F G、BK及びCBのそれぞれに人事担当役員と人事部を置く3名3部体制から、F Gのみに人事担当役員と人事部を置く1名1部体制に移行し、人事ラインを完全に一本化
- ・ グループベースでの人材ポートフォリオ管理を実現し、適材適所の人材配置や機動的な人員配置を徹底することで、組織活力を向上

(3) 業務インフラの一元化

① 事務の一元化

- ・ 次期システム構築までの堅確かつ効率的な業務運営、次期システムへの円滑な移行を勘案し、BK、CB及びみずほ信託銀行株式会社（以下「TB」）のバンキング業務に係る事務を一元化（実施目途：2012年度末）
- ・ BK、CB及びTBの営業店事務手続や業務フローの共通化を図り、地域営業部も含め同一拠点内事務のBK片寄せや事務センターのグループ共通化を加速
- ・ グループ内共通業務の重複解消に向け、既に着手した住宅ローン業務のBK集約に加えて、BK及びTB間の普通預金やATMの早期共通化を加速。CBについても同様の業務共通化を検討

②システムの完全一元化（次期システムの構築）

- ・ B K、C B及びT B 3 行の勘定系システムを一元化し、新しい基盤の下で構築
- ・ 次期システム構築を加速し、2012 年度末を目途に業務共通基盤を完成。以後、2015 年度末を目途に順次、預金・為替・融資・外為・信託といったコンポーネントシステムをリリース、併せて基幹情報系もリリース
- ・ 次期システム構築の最終形として、勘定系・情報系に加えて、チャネル系を含む全てのバンキング業務のシステムプラットフォームの完全一元化を検討
- ・ 次期システム構築には、これまで以上に「安定性・堅確性」を重視

4. お客さまとの接点強化

この度発表いたしました企画・管理本部の更なる一元化や人事の一本化など、本部機能のスリム化・合理化を推進することにより、お客さま担当の役員や担当者の人員増強を図ってまいります。

既に発表しております1,000名の営業現場へのシフトを加速し、信頼回復に向けて、お客さまとの接点強化に努めてまいります。

5. おわりに

昨年度の「〈みずほ〉の「変革」プログラム」発表から、およそ一年が経過致しましたが、「収益力」「財務力」「現場力」の3つの力の強化につきましては着実に進捗しており、確かな手応えを感じております。

しかしながら、この度のシステム障害を踏まえ、目指す姿として掲げている「最も信頼される金融機関」となるためには、一段の自主的・自律的改革が必要であることを強く認識いたしました。そこで、私どもは「変革」プログラムを加速させ、「ワンバンク」に実質的に移行することといたしました。

私ども経営陣の強いコミットメントのもと、組織・体制、人事、事務・システムに至るまで経営インフラを徹底的に見直すとともに、役職員の意識改革を促し、企業風土の再構築を図ることで、「お客さま第一主義」を徹底してまいります。また、金融機関としての社会的使命を全うするよう努力してまいります。このように、経営インフラ改革と意識改革の両面から〈みずほ〉を再生させ、お客さまはもとより、広く社会の皆さまからの信頼回復に向け、グループ役職員一丸となって取り組んでまいります。

以上

「信頼回復」に向けた取り組み(イメージ図)

